

お悔やみ、書かない コーナーの取組は

山岡 幹雄議員

現時点ではコーナー設置の考えはない
市民協働部長



▲大分県別府市おくやみコーナー

問 親族が亡くなった場合、遺族は悲しみの中、各種手続を進めなければならない、その手続の種類は。

答 手続の種類は21種類。

問 死亡に伴う手続について、大分県別府市では、職員の提案により、お悔やみコーナーを設置し、手続の一括化サービスを実施。千葉県船橋市では、書かないコーナーを高齢者や字を書くことが困難

な方にモニター画面において確認しながら端末を一緒に入力し、手続の漏れを防ぐ、住民サービス向上と窓口での対応時間の短縮になる。愛西市も、この取組を実施すべきではないか。

答 現時点で、お悔やみコーナー、書かないコーナーの設置は考えてない。

行政と自治会との 関係構築を

問 自治会への加入率と未加入世帯の数、総代の最高年齢と平均年齢、定年制の計画があるか。

答 自治会の加入率は約97%、未加入世帯は約480世帯、令和2年度の最高年齢は82歳、平均年齢は66.9歳。総代の定年制の計画はない。

問 行政と自治会との関係構築をどのように進めるか、自治会未加入者に対する対応についての考えは。

答 少子高齢化や人口減少、つながりの希薄化、役員の担い手不足等、地域課題が多様化・深刻化している状況の中で、地域を見直し、魅力あるまちづくりを進めるために、市内でモデル地区を決め、市民主体で一人ひとりが主役となり、ワークショップ

プ、まち歩き、様々な世代での話し合い、アンケートの実施等を行い、その中で、地域の強みや課題を発掘し、地域が目指す方向性、ビジョンを描き、事業展開の再考や担い手等の人材育成をすることで、持続可能な地域運営を目指していく。
自治会未加入者については、加入を促す働きかけをしていく。